

**製品名: GCP4 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11366**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	76kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TUBGCP4
別名	TUBGCP4; 76P; GCP4; Gamma-tubulin complex component 4; GCP-4; hGCP4; Gamma-ring complex protein 76 kDa; h76p; hGrip76
遺伝子 ID	27229.0
SwissProt ID	Q9UGJ1
免疫原	抗血清はヒト TUBGCP4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

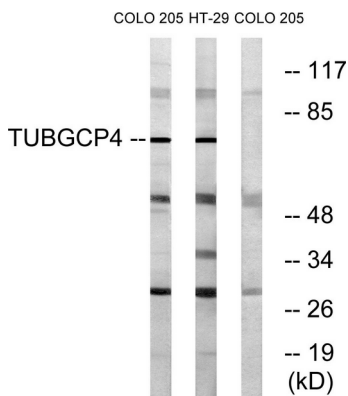
**背景**

この遺伝子は、微小管の核形成に必要な  $\gamma$ -チューブリン環複合体の構成要素をコードする。哺乳類細胞では、このタンパク質は  $\gamma$ -

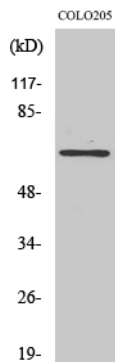
チューブリンと共存して中心体に局在する。結晶構造解析により、保存された疎水性コアの周囲に配置された5つのらせん束からなる構造が明らかになった。C末端ドメインに位置する露出した表面領域は、 $\gamma$ -チューブリンへの直接結合に必須かつ十分である。微小管構造を変化させるこの遺伝子の変異は、小頭症および脈絡網膜症と関連している。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2015年5月],機能:ガンマチューブリン複合体は、中心体における微小管の核形成に必須である。、類似性:GCPファミリーに属する。、サブユニット:ガンマチューブリン複合体は、ガンマチューブリン、GCP2、GCP3、GCP4、GCP5、およびGCP6から構成される。、組織特異性:普遍的に発現する。、

## 研究分野

## 画像データ



COLO細胞およびHT-29細胞のライセートをTUBGCP4抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



GCP4ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析